

ヒアリング調査結果 ～子育てサークル・子育て支援団体 利用者～

- 調査対象： (1) ぞうさん文庫（南町地区会館 文庫部）利用者
(2) ミトンの会（NPO法人 ワーカーズ・コレクティブ ちろりん村）利用者
- 実施日時： (1) 令和元年6月28日（金） 午後3時30分～5時
(2) 令和元年7月5日（金） 午前10時30分～11時30分
- 実施場所： (1) 南町地区会館
(2) ひばりが丘児童センター
- 実施方法： (1) 毎月最終金曜日開催している「おはなしおばさん」に参加する利用者及び実施者にインタビュー形式で実施
(2) 毎月第1金曜日※に開催している「ミトンの会」に参加する利用者インタビュー形式で実施
※別の場所で毎週水曜日にも開催している。
- 回答者： (1) 4人（利用者 3人、実施者 1人）
(2) 7人（全員が母親）

(1) ぞうさん文庫 利用者

ぞうさん文庫の概要

- 南町地区会館にて、絵本を中心に図書の貸出を行っている。図書の貸出しは、毎週金曜日の午後3時から5時まで。貸出カードを作成しており、一度に5冊・2週間まで本を借りることができる。
- 蔵書は個人の持ち寄り、寄付のほか、バザーの収益などで少しずつ増やしており、2,000冊～3,000冊置いている。
- ぞうさん文庫は、正式には「南町地区会館 文庫部」という。南町地区会館は、もともと地域の自治会・町内会が建設したもので、一室を図書室として住民で利用・貸出をしていた。この活動には、近隣の小中学校のPTAも参加していたが、担い手が不足したため平成4年に一度休止となっている。約2年後、蔵書を処分するのは惜しいとのことから、以前PTAとして参加していた現代表が「ぞうさん文庫」として活動を再開した。
- 活動に関わるメンバーは、地区会館の運営協議会のメンバーと活動に協力してくれている近隣の小中学校PTA（当番制・2か月に1回程、図書貸出の受付を行う。）で、20人以上いる。PTAの方が当番終了後にスタッフになってくれることもあり、現在はメンバーの不足で悩むことはない。無理をしないで「ゆるく」活動することを大切にしている。
- 毎月最終金曜日には、午後3時30分から30分程度「おはなしおばさん」を開催。絵本の読み聞かせ、紙芝居、手遊びなどを行う。
- 毎年クリスマス会を行っている。人形劇や手品・大道芸を楽しんだり、サンタがお菓子のプレゼントを配ったりする。毎回盛況で、100人近くが参加する。日曜日の午後実施することとしており、近年は父親が子どもと参加することも多い。

ヒアリング当日の様子

- 小学生（低学年）の女子2人が、しばらく室内で自由に本を読んだから、借りた本を持ち帰っていった。そのほか、数名の小学生が本を借りに来ていた。

- この日の「おはなしおばさん」には近所の保育園（小規模保育施設）から1歳・4人、2歳・4人の子どもと引率の保育士の方が参加していた。

利用者等からの話

＜子どもを引率して来た近所の保育施設の方＞

- 保育施設が、南町地区会館から2歳の子どもと一緒に散歩できる距離（1歳の子どもはバギーで来所。）にある。地区会館隣接の公園に来たことはあるが、ぞうさん文庫については知らなかった。「おはなしおばさん」のことを南町地区会館関係者から聞き、当日はおやつ時間を早めにして散歩を兼ねて来所した。（はじめての利用）
- 読み聞かせや紙芝居など、子どもたちが楽しめたようだ。読み聞かせが上手で参考にもなった。今後も機会があれば参加したい。

＜「おはなしおばさん」に参加された方＞

- 3月まで市内の別の地域に住んでおり、そこでは地域子育て支援センターの子育てひろばを毎週1～2回利用していた。
- 4月に南町地区会館の近所に転居した。近くで親子で過ごせる場所を探している。ぞうさん文庫のことは運営に親族が関わっていることもあり知っていた。当日は「おはなしおばさん」に合わせて訪れてみた。ぞうさん文庫はコンパクトなスペースで、「けやき」とはまた違った良さがあると思う。
- 地域には、同じ年齢層の子どもと一緒に遊べる場所ができるだけ多くある方が良いと思う。

＜図書の貸出受付をしていた小学校PTAの方＞

- 手伝いをするのは2回目だが、ぞうさん文庫はとても良い取組だと思う。もっとはやく利用すればよかったと思う。
- 公園の近くの地区会館で実施していたため、ぞうさん文庫の存在は前から知っていたが、PTAの当番になるまで利用したことはなかった。
- 当番終了後もお手伝いしたいと思うが、仕事をしているので実際は難しい。
- 子どもについて、何か塾などの勉強に関する習い事をさせた方が良いか悩んでいる。また、ゲームが好きで家にこもりがちになっているのが気になる。オンラインでゲームをしているので、ネット上での交友関係などが心配である。
- 子どもが、食べること・料理することが好きで調理クラブに入っている。将来は料理人になりたいと話していて、子どもの成長が楽しみである。
- 学校で本の読み聞かせがあるのだが、その本がぞうさん文庫にもあるとリンクして良いと思う。

＜ぞうさん文庫 お手伝いの方＞

- 「おはなしおばさん」は幼児と保護者が主な対象だが、ぞうさん文庫の本の閲覧・貸出は小学生の利用が多い。
- 小学校高学年の女の子が本を読みながら友だちとの待ち合わせに使ったり、男の子がごろんと休んでいたりすることもある。
- 最近、訪れる子どもが少なくなっていると感じる。子どもがここに来るひまもないほど忙しくなっているのではないかと感じる。

(2) ミトンの会 利用者

ミトンの会の概要

- NPO 法人ワーカーズ・コレクティブ ちろりん村が、ひばりが丘児童センターと共催で「ミトンの会」を行っている。開催日時は、毎月第1金曜日の午前10時30分から11時30分まで。児童センター以外でも、毎週水曜日に寺子屋だるまで実施している。
- ミトンの会は、申込みも予約も不要で、参加は自由。小さい赤ちゃんを連れて、多いときで12組くらいが参加している。近年、付近にマンションも建設され、毎回、何組か新規の方が参加している。
- 児童センターの協力が非常に大きい。場所はもちろん、参加者の飲み物も児童センターが用意してくれる。遊びで使うミトンの会の木製おもちゃも児童センターで保管されている。
- 児童センターとちろりん村の共催で、毎年夏・冬休みの時期に赤ちゃんと児童がふれあうイベントを実施している。小・中・高校生が赤ちゃんと接する機会を作り、小さい子どもへの愛着が生まれるとよいと考えている。
- 現在のミトンの会の運営は、ちろりん村からは1名程度、参加者のOBや子育て中のお母さんが手伝ってくれる。児童センターのスタッフも手伝ってくれる。

利用者からの話

<参加の目的>

- 子どもの遊びの場所（5人）／家以外のどこかで親子で過ごしたかった。（3人）
／子育ての情報収集（1人）／ママ、パパ同士の交流・おしゃべり（1人）
- 今日たまたま仕事が休みで、上の子（3歳）が児童センターのキッチンを使いたいというので下の子（1歳）と来館した。ミトンの会が開催されていたため、覗いてみてそのまま参加した。はじめて参加した。
- 普段は子どもと自分だけなので、ほかの人がいるのは気分転換になる。
- 木製のおもちゃで遊べるところが良い。子どもは、いつものメンバー（友だち）に会えることも嬉しいようである。
- 子どもにとって良い刺激になると思った。

<これまでの参加>

- これまでに参加したことがある。（5人）
- 今回が初めて。（2人）

<活動のことを何で知ったか（参加のきっかけ）>

- 子どもが3か月の時、たまたま児童センターを訪れ、職員の紹介で知った。
- 家が近所で児童センターの催事カレンダーを見て知った。／児童センターでミトンの会のポスターを見た。
- 市役所で児童館のお便りを読んだことがきっかけ
- 子どもが3か月の時に参加した集まりで、ミトンの会のメンバーが保育をしてくれた。その際に紹介してもらった。

<子育てについて、これから楽しみなこと、期待していること>

- 上の子（2歳・男子）がやんちゃ。もうすぐ2人目ができるので、どんなお兄ちゃんに

なるか楽しみ。

- おしゃべりができる、はいはいができるようになる、歩けるようになる、活発になっていく、一緒に遊べるようになるなど子どもの成長が楽しみ。(4人)

<子育てについて、今、知りたいこと、不安なこと>

- この先、保育園に入れず、幼稚園の利用になった場合、預かり保育の利用料がかさむことや利用しづらいのではないかと心配している。
- 保育園に入れるか心配である。
- 自分から調べないと情報が得られない。児童館のお便りが家に届くと良いと思う。
- 自分の母親としての成長が不安
- 地域とのつながり、コミュニティへの参加について気にしている。
- とくにない。

<教育・保育事業の利用や今後の就労予定(希望)など>

- 育児休業取得中。保育園に預けて仕事に復帰したいが、難しいかとも思う。
- 仕事をしており、子ども2人とも保育園を利用している。
- 保育園の利用を考えている。入園できたらすぐに仕事をしたいので、仕事も探している。
- 育児休業取得中。来年度からフルタイムへの復帰を決めているが、保育園の2歳の枠が少ないと聞いており心配である。

<活動に参加しての感想>

- 気に入っている。気軽に育児の相談ができるところも良い。ここで顔見知りになったほかのママさんと挨拶できるのも良い。
- 家にずっといると子どもも自分も飽きてしまう。天気の良い時などの居場所を求めており、この会の開催と仕事の休みが合えば、ぜひまた利用したい。
- 児童館のイベントなどはよく来る。この会にも継続的に参加したい。
- 同じ月齢くらいの赤ちゃんが多かったのが良かった。また、栄養士や臨床心理士など専門家が参加していて、相談できるのが良かった。
- 子ども同士の年齢が近いママ友が増えて良かった。
- 参加している子どもの年齢がいろいろなので、子育て・子どもの成長の参考になる。
- 強制のものがなく、気楽さがあって参加しやすい。

<他区市町村にある施設やサービスで西東京市でも取り入れたほうがよいと思うもの>

- 以前住んでいた国分寺市では、団地の中に赤ちゃんと一緒に過ごせる場所があった。

<西東京市への要望・希望など>

- 一時保育の予約が、どうしても預けたい時に取りづらいので改善してほしい。例えば費用を前払いにして、キャンセルしても返還されないといったことでもよいので、確実に取れるようになるとよい。
- 出産後、食事の支度や作り置きなど家事を支援してくれるサービスがあるとよい。
- 2歳を受け入れてくれる幼稚園がほしい。
- ベビーカーで通りにくい歩道を改善してほしい。

- 保育園に入りやすくしてほしい。
- 0歳、3歳の2人が同じ保育園だが、預けるときは上の子（3歳）が先、お迎えのときは上の子が後、とされている。上の子のクラスが2階にあり、0歳の子どもを連れての階段の上り下りが結構大変である。その保育園だけのルールかもしれないが、変えてもらえるとう助かる。
- 児童センター付近の道にある犬の糞を清掃してほしい。または、立て札を設置するなど。
- ひばりヶ丘駅の南口側にも駐輪場があるとよい。

<このような会に自らが運営者として参加していく意向があるか>

- せっかく地域の人との縁もできたので、仕事との兼ね合いもあるが参加したい。（1人）
- 現在、ミトンの会のお手伝いをしている。きっかけは、前に手伝いをしていた方が辞めるときに声を掛けられ、バトンを渡されたかたちで参加している。（1人）

<その他>

- 父親は仕事から早く帰るようにして子どもをお風呂に入れるなど、夫婦で子育てしていると感じている。

まとめ-----

- 今回のヒアリング事例では、南町地区会館、ひばりが丘児童センターといった活動拠点の存在が、地域活動の始まり及び継続の上で大きな役割を果たしていることがわかった。
- 地域施設を訪れたことで、半ば偶然の形で市民活動のことを知った例があった。また、そうさん文庫と近隣の小規模保育施設の出会いに偶然立ち会うこととなり、話を聞くことができた。
- 「ミトンの会」利用者の参加理由や市への要望などは、地域子育て支援拠点事業（子育てひろば）の利用者へのヒアリング結果と大きな違いがなかった。利用者にとっては、過ごしやすい、行きやすい、楽しい、といった得られる体験こそが大事であると考えられる。
- 2つの取組とも、運営側スタッフについては「強制されない」「自由意志で手伝っている」、利用者側については「フリー（無料という意味ではなく自由という意味で）な形態」「規定や規則にしばられない」といった共通点があり、それが参加や利用の継続にもつながっているものと推察される。